

平成30年度

岩出市教育委員会事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書

(平成29年度事務事業対象)

平成30年10月

岩出市教育委員会

はじめに

岩出市教育委員会では、第2次岩出市長期総合計画に掲げたまちづくりの基本方針である「活力あふれるまち ふれあいのまち」の実現に向け、学校教育の充実並びに青少年健全育成、生涯学習・スポーツの推進及び文化・芸術の振興に努めてまいりました。

また、平成29年度の重点目標として、「確かな学力の育成と文化・スポーツの振興」(～つながる、変革する～)を掲げ、その推進に当たっては、各種関係機関・団体等及び地域との連携を強化し互いの顔の見える関係を構築するとともに、前例踏襲からの脱却を図りながら業務に取り組んできたところです。

本報告書は、本市教育委員会の課題や、今後の取組の方向性を明らかにし、教育行政の一層の推進を図るとともに、市民から信頼される教育行政を推進するため、平成29年度に実施した事務事業の点検評価をまとめたものです。

点検・評価の結果を踏まえ、よりよい教育の実現を目指し、教育行政の充実にあつてまいります。

平成30年10月

岩出市教育委員会

目 次

I 岩出市教育委員会事務の管理及び執行状況の点検・評価の報告について	
1 目的	1
2 実施方法について	1
3 評価項目・内容について	1
4 点検・評価の経過	2
5 教育委員会評価委員	2
6 点検評価結果	
【教育総務課】	
(1) 学校環境の充実（教育環境の充実）	3
(2) 学校環境の充実（学力の向上）	6
(3) 学校環境の充実（学校給食の充実）	7
(4) 学校環境の充実（家庭・地域との連携）	8
(5) 国際化の推進	9
【生涯学習課】	
(1) 学校環境の充実	10
(2) 健全育成のための環境づくり	10
(3) 生涯学習の充実	11
(4) 生涯スポーツの推進	13
(5) 文化・芸術活動の活性化	15
(6) 歴史・伝統文化の振興	16
(7) 人権尊重の推進	17
【岩出図書館】	
(1) 図書館事業の充実（子ども読書活動推進事業）	18
(2) 図書館事業の充実（図書館運営事業）	19
【民俗資料館】	
(1) 文化・芸術活動の活性化	22
(2) 歴史・伝統文化の振興	23

7 教育委員会事務事業評価一覧表

【教育総務課】

事務事業評価一覧表 25

【生涯学習課】

事務事業評価一覧表 29

【岩出図書館】

事務事業評価一覧表 35

【民俗資料館】

事務事業評価一覧表 37

II 関連資料

○平成30年度教育委員会事務事業評価に関する意見書の提出について . . . 38

○教育委員会評価委員会の教育委員会評価に対する主な意見 40

○岩出市教育委員会評価等実施要綱 43

I 岩出市教育委員会事務の管理及び執行状況の点検・評価の報告について

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進することを目的として実施する。

2 実施方法について

- (1) 教育委員会事務局の2課（教育総務課・生涯学習課）・2館（岩出図書館・民俗資料館）の平成29年度の主要な事務事業を抽出し、各事業について妥当性、効率性、有効性などについて自己評価を行う。
- (2) 評価委員に（1）の事務事業について、担当職員等が説明を行い、複数回意見をいただく。
- (3) 評価委員の意見をもとに教育委員会が評価を行い、今後の方針・施策に反映させるなど、PDCAのマネジメントサイクルを確立し継続的に事務改善を図る。
- (4) 法律に則り議会へ提出するとともに内容を公表（web）する。

3 評価項目・内容について

- (1) 各事業を、第2次岩出市長期総合計画に基づき【基本施策（重点施策）】ごとにまとめ、施策単位で点検・評価を実施する。構成は、〔基本方針〕〔主な取組状況〕〔総合評価〕〔評価委員会の意見〕とする。別添で、各課・館毎に評価一覧表を作成する。
- (2) 評価については、4段階評価とする。
「a：期待以上」、「b：期待どおり」、「c：やや下回る」、「d：期待以下」
- (3) 今後の方向性については、4つの基準を示す。
「廃止」、「見直し」、「完了」、「継続」

4 点検・評価の経過

年 月	会 議 等	内 容
平成 30 年 6 月	事務事業評価（各課・館）	事務事業評価（自己評価）の実施
平成 30 年 7 月	7月定例教育委員会	点検・評価について
平成 30 年 7 月	第 1 回 点検・評価委員会	各事務事業の説明 各事務事業に対する質問・意見
平成 30 年 8 月	第 2 回 点検・評価委員会	各事務事業に対する意見のまとめ
平成 30 年 9 月	9月定例教育委員会	点検・評価報告書のまとめ
平成 30 年 10 月	点検・評価報告書を市議会に提出、web公表	

5 教育委員会評価委員

氏 名	職 名
土生川 政幸	元岩出市立小学校長
大西 利雄	社会教育委員議長
松田 晃作	青少年育成市民会議委員長

6 点検評価結果

【教育総務課】

(1) 学校環境の充実（教育環境の充実）

〔基本方針〕

児童・生徒が安全で安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備するため、計画的な施設及び教材・教具等の整備に努めるとともに、不登校児童・生徒に対する教育相談体制の充実を図る。

また、生涯にわたる人間形成の観点から、生涯学習の基礎を培い、心身の健全育成と多様な社会環境に適應できる能力を持った児童・生徒の育成に努める。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- いわでアスリートクラブ事業では、陸上競技を通じて、小学校3年生から6年生の児童の心身の健全育成に努めた。
実施回数：32回 登録者数：297名。
実施場所：中央小学校又は大宮緑地総合運動公園。
- 適応指導教室事業では、学校や関係機関と連携を図り、児童・生徒の在籍校への復帰に努めた。
入室児童・生徒数：小学生1名、中学生14名（左記以外に、体験小学生1名、中学生5名）。
延べ日数：小学生7日、中学生721日
来所相談者：8名 電話相談件数：1件
学校との連絡：324件、家庭等の連絡：249件
※H30.1～スクールカウンセラーの配置
- 特別支援教育就学奨励費扶助事業を実施することにより、保護者の負担軽減に努めた。
小学校：59名 中学校：19名。
- 要保護・準要保護児童・生徒扶助事業を実施することにより、保護者の負担軽減に努めた。また、修学旅行費の事前支給を行い、保護者負担の軽減に努めた。
小学校：355名（要保護3名含） 中学校：274名（要保護3名含）
- 中学校防災訓練については、災害への危機意識を高める授業の一環として、中学3年生全員を対象として、那賀消防組合、市消防団等の協力を得て実施

した。

岩出中学校：285名 岩出第二中学校：273名。

- 防災ジュニアリーダー育成事業については、中学生の希望者を募り、夏休みの2日間、那賀消防組合消防本部及び中消防署の協力を得て実施し、防災の啓発・指導・実践活動ができるジュニアリーダーの育成を行なった。
防災ジュニアリーダー 36名
市地域防災訓練への参加 9名
- 小・中学校の補修工事については、優先順位により計画通り事業を実施し、児童・生徒の安全確保に努めるとともに、耐用年数の延長を図った。
- 通学路整備工事については、各学校より危険箇所の報告を受け、関係機関（学校、PTA、教育委員会、土木課、警察署、振興局）等の合同点検を実施し、改修工事を施工した。
- 倒壊による事故を未然に防止するため、通学路危険ブロック塀等改善事業補助を計画し、市防災訓練や区・自治会長会においても周知のパンフレットを配布したが、利用件数はなかった。
- 教材・教具等の整備については、小・中学校とも、計画に基づき購入することができた。図書については、岩出図書館からの司書や学校ボランティアの意見を参考に選書することができた。また、すべての小・中学校の蔵書数が標準冊数に達している。
- 登下校時の危険防止のため、児童携帯用防犯ブザー購入費を補助し、防犯ブザーの携帯を奨励したが、個人で購入していたりして、申請率は伸び悩んでいる。また、防犯グッズの携帯率も学年が上がるにつれ低くなっている。
144名分を補助 申請率28.0%。
防犯グッズ所持率 小学生57.0%（1年生74.3%）

〔総合評価〕

- ◎ 学校環境の充実（教育環境の充実）については、9事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が7事業、「やや下回る」が2事業と評価し、今後の方向性は9事業全てを「継続」とした。
- いわでアスリートクラブ事業については、登録者数・参加率が伸びた。学年別練習等、練習内容の充実を図るために指導者の確保が課題である。
- 適応指導教室事業については、入室困難な児童・生徒がいるため、学校、家庭に加え、関係機関との連携強化を図っていく必要が今後更に求められている中、1月から県教委からスクールカウンセラーの派遣があった。また、中学3年生の入室者全員、進路が決まった。
- 中学校防災訓練については、訓練内容がマンネリ化してきていること

から津波防災講話を取り入れ、防災意識の拡大を図った。また、第二中学校にマンホールトイレが設置され、両中学校で同じ内容の訓練を実施することができた。

- 防災ジュニアリーダーについては、育成講座で学んだ知識を活用し、地域防災訓練への参加や翌年（前年度受講生）の防災訓練でのリーダーとして活動した。
- 小・中学校施設改修事業については、補修工事、環境整備工事の実施により教育環境の整備が図られた。突発的な修繕が必要なケースも増え、今後はより精度の高い修繕計画や長寿命化計画の策定が必要である。
- 通学路整備事業については、児童・生徒の安全確保を図るために必要な事業であり、地域住民への周知方法の改善に努める必要がある。また、警察による通学道路の一部速度規制区間「ゾーン30」の設定に、土木課とともに協力した。しかし、ブロック塀等改善補助事業については、申請が無く、周知方法等工夫が必要である。

〔評価委員会の意見〕

- いわでアスリートクラブについては、登録者数や参加率の向上など、運動機会の確保に繋がっている。指導者についても、アスリートクラブ出身の大学生などが登録されるなど、上手く循環してきている。今後も指導者確保に向け、取組を進めていただきたい。
- 適応指導教室事業については、児童・生徒及び保護者への周知を徹底し、学校へ登校できない児童・生徒への入室推進及び入室者の在籍校復帰に向けた取組に尽力されたい。また、入室者が安心して過ごせるよう、スクールカウンセラーの派遣など県教育委員会と調整いただきたい。
- 中学校防災訓練や防災ジュニアリーダーについては、防災意識の向上や「自助」、「共助」の意識を高めるなど、有事の際のリーダーとして地域で活躍できる生徒の養成に引き続き努められたい。また、小学校においても実践的な取組を進められたい。
- 小・中学校施設改修事業については、教育環境の整備や避難所としての機能を兼ね備えた改修（空調設備や老朽化に伴う長寿命化、トイレ改修など）も視野に入れて計画されたい。
- 通学路の整備事業については、引き続き関係機関と合同で点検を実施し、児童・生徒の安心・安全確保に努められたい。また、ブロック塀等改善事業補助については、広報の工夫をするなど補助を活用いただけるように努められたい。
- 教材・教具の整備については、学力の向上に必要であると考えられること

から、図書も含め今後も充実に努められたい。また、次期学習指導要領改訂に伴い、英語教育やICT機器など必要な教材・教具の整備に努められたい。

- 児童携帯用防犯ブザー補助事業については、防犯ブザーの携帯が児童の安全を確保するために必要であることから、事業についての周知に努めるとともに、防犯グッズの携帯率の向上に向け児童・生徒及び家庭への啓発に努められたい。

(2) 学校環境の充実（学力の向上）

〔基本方針〕

「生きる力」を育むため、個人の尊厳と個性の尊重という基本的な考えに立ち、一人ひとりの能力と個に応じた教育実践に努めるとともに、教職員の資質向上を図る。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- 学力向上実践研究事業により、小中学校教職員を先進校に派遣し、教職員の指導力向上を図り、学んだことを自校及び市教職員研修会で伝達・還元した。また、派遣先校長（川崎小学校）を招聘し、管理職研修を実施した。
川崎市立川崎小学校等（14名）、刈谷市立依佐美中学校等（16名）に派遣。

〔総合評価〕

- ◎ 学校環境の充実（学力の向上）については、1事業の評価を実施し、総合評価は「やや下回る」、今後の方向性は「継続」とした。
- 学力向上実践研究事業については、先進校を視察した教職員の指導力向上となった。今後、視察者の授業改善だけに留まらず、自校及び市内各校への内容の伝達・還元がどの程度進んでいるのか、今までの研修会での発表に加え、授業等の公開を進めていく必要がある。今回、派遣先の校長を講師に招聘し管理職研修を実施するとともに、視察者による授業公開を行うなど、成果検証の一つとして授業公開を位置づけることができた。
今後は、各種調査の数値を向上させ、教員はもちろん児童生徒も実感を持てるような結果を出すことを目標とする。

〔評価委員会の意見〕

- 学力向上実践研究事業については、視察した教職員だけにとどまらず、校

内及び市内全体のスキルアップに努めるとともに、学力向上に向けた具体的な取組を実践されたい。また、各種調査結果においても反映できるよう、児童・生徒の学習意欲や授業改善等に努められたい。

(3) 学校環境の充実（学校給食の充実）

〔基本方針〕

地産地消率の向上に努め、栄養バランスのとれた安全で安心な学校給食を提供する。

また、学校給食費の完全徴収を目標に、児童手当からの徴収をはじめ、学校と連携しながら学校給食の運営に努める。

〔平成29年度の主な取組状況〕

○ 学校給食については、保護者を対象に試食会を開催し、普段児童・生徒が食べている給食を試食してもらった。また、給食の時間に栄養教諭による巡回を行い、食育の指導を行った。

給食費の徴収については、学校と連携を図るとともに児童手当からの徴収を行い、現年度の徴収率は昨年度より上回った。

地産地消の推進 旬の野菜21品目使用 地産地消率57.0%

(H28:旬の野菜21品目使用 地産地消率56.8%)

徴収率(現年度)99.52%(H28徴収率(現年度)99.32%)

(過年度)57.40%(H28 51.51%)

〔総合評価〕

- ◎ 学校環境の充実（学校給食の充実）については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」、今後の方向性は「継続」とした。
- 学校給食については、地元産の食材を取り入れ、栄養バランスのとれた献立を提供したが、地産地消率を維持向上させるためには、地元産の食材を使用した安心で美味しい献立をさらに推進する。
- 給食費の徴収については、特に現年度の完全徴収の強化に努める必要があることから、より一層学校との連携を図り滞納気味な家庭には、児童手当からの徴収同意など、徴収率の向上に努めるとともに、再三の督促等に応じられない家庭には、裁判所への申立を行うなど、完全徴収に向け取り組んだ。

〔評価委員会の意見〕

- 児童・生徒が毎日食べる給食については、安全・安心の徹底に努めるとともに、地産地消も意識した給食づくりをお願いしたい。また、給食費の徴収については、公平性の観点から引き続き現年度の完全徴収への取組を強化していただきたい。

(4) 学校環境の充実（家庭・地域との連携）

〔基本方針〕

学校・家庭・地域及び行政が連携を密にし、協力を得ながら、ふるさと教育の充実に努める。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- 紀の国緑育推進事業については、実体験だけでなく、学習効果を高めるための事前及び事後学習を行なった。

参加児童数：536名 場所：日高川町 日高川ふれあいドーム

- 和歌山を元気にする職場体験事業については、平成29年度からは、職場体験に臨む前にマナー教室を実施することで、社会人としての心構えやマナーを身につけた。

	H29		H28	
岩出中学校	241名	94事業所	284名	94事業所
岩出第二中学校	275名	76事業所	271名	76事業所

〔総合評価〕

- ◎ 学校環境の充実（家庭・地域との連携）については、2事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が2事業と評価し、今後の方向性は2事業を「継続」とした。
- 紀の国緑育推進事業については、自然と触れ合う機会が減少している現代の児童にとって貴重な体験ができる事業であり、環境への興味・関心を高めることができた。
- 事業所の協力を得て中学2年生を対象に3日間の職場体験を実施し、生徒に勤労観及び職業観を身に付けさせることができた。今後は、事前・事後活動をしっかり教育課程に組み込み、キャリア教育の視点で生徒にも目的意識をもって活動させることがより求められる。

〔評価委員会の意見〕

- 和歌山を元気にする職場体験事業については、生徒の社会・地域への視野

を広げたり将来の職種選択の幅を持たせたりするためにも引き続き、受け入れ事業所の確保や開拓に努められたい。また、生徒には体験学習の意義を再度確認する上でも、事前・事後学習の充実に努められたい。

(5) 国際化の推進

〔基本方針〕

外国語教育の充実と国際感覚の優れた人材育成に努めるとともに、国際理解推進のための教育を行なう。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- 夏休み中に新たな外国青年（ALT）を招致して、日本での生活や2学期からの授業に向け各中学校等と連携・準備を行い、2学期から各中学校2週間ごとに英語授業の助手としてネイティブな授業を実施した。

〔総合評価〕

- ◎ 国際化の推進については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」、今後の方向性は「継続」とした。
- ALT自身が研究熱心であり、中学校英語科の教師と連携し外国語教育の充実に努めた。また、新学習指導要領により、小学校への外国語教育の推進が求められ、平成30年2学期から小学校へもALT派遣できるよう計画をすすめている。

〔評価委員会の意見〕

- 外国青年招致事業については、平成30年9月から小学校へ派遣されるが、児童や教員への外国語教育に対する効果や成果、課題等、検証し平成31年度に活かしていただきたい。

【生涯学習課】

(1) 学校環境の充実

〔基本方針〕

学校、家庭、地域が一体となって子どもの育ちや学びを支えるため、学校支援、学習支援、校内環境整備など学校支援ボランティアによる取り組みを推進する。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- 学校支援地域本部事業については、根来小学校におけるコーディネーターが交代、学校支援ボランティア募集チラシ配布、新たな協力者の募集を行うとともに、根来小学校における家庭・地域の方々による授業補助やゲストティーチャー、小学校芝生の管理などの活動を支援した。

〔総合評価〕

- ◎ 学校環境の充実については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」で、今後の方向性は「継続」であり、今後も、根来小学校における学校・家庭・地域が一体となった学校支援活動の支援に努める。

〔外部評価委員の意見〕

- 学校支援地域本部事業については、各学校にコミュニティスクールの実施に向け、核となるコーディネーターの発掘とともに、地域と保護者と学校の連携強化に努められたい。

(2) 健全育成のための環境づくり

〔基本方針〕

青少年健全育成に関わる各種団体の活動の充実と各組織との連携強化に努め、学校・家庭・地域及び行政がそれぞれの果たす役割を明確にし、青少年を取り巻く様々な問題について取り組み、子どもの育つ環境を守るとともに、地域社会を形成している大人に対しても、青少年の健全育成に対する重要性や意識の向上に努める。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- 青少年健全育成事業については、「青少年育成市民会議」をはじめ、青少年が心豊かに成長することを願う各組織の強化・充実を図った。また、「あいさつ運動」、「見守り活動」、「子ども安全パトロール隊」などの活動を通じて、青少年の取り巻く環境の安全確保を図った。

他にも、青少年センターでは、青少年の健全育成及び非行防止として、不良行為の早期発見、早期指導、補導活動、少年相談、立ち直り支援などに努めた。

- 成人式事業については、新成人を励ますとともに、大人となったことの自覚を促すため、成人式を開催した。

〔総合評価〕

- ◎ 健全育成のための環境づくりについては、2事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」で、今後の方向性は「継続」であり、今後も、学校・警察・青少年センター及び家庭・地域関係団体等が行政と一体となって、青少年が健やかに育つ環境づくりに努める。また、成人式を開催し、大人となったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます。

〔外部評価委員の意見〕

- 青少年健全育成事業については、地域や各種団体と連携した活動により、犯罪抑止効果において一定の成果をあげている。
- 青少年育成市民会議の本部役員の若返り等、人材育成の取組を図られたい。

(3) 生涯学習の充実

〔基本方針〕

市民一人ひとり生きがいを持って、人生を送ることのできる活力あるまちづくりを進めるため、学習者の主体性を尊重し、「いつでも、どこでも、誰でも学べる」、「共に生き、共に学ぶ」ことができる環境づくりに努める。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- 放課後子ども教室推進事業については、子どもたちの安全・安心な居場所

づくりのため、小学校の空き教室等を利用して、地域の方々の参画を得て、学習活動・文化活動を通して、地域住民との交流活動に取り組んだ。

6小学校で71教室、参加児童延べ人数は5,697名。

- 生涯学習を考えるつどい事業については、文化祭の前夜祭として、コンサートを実施した。

生涯学習を考えるつどい 小川 友子 クラシックコンサート
～お話と演奏で楽しむ～

参加者数322名

- 公民館事業（ふれあい・成人・家庭教育）については、市民一人ひとりが生涯学習の各過程において、適切に学習できる「場」と「機会」を提供し、あらゆる世代に親しまれる事業を実施した。

成人講座は、10講座、受講者数は延べ1,224名。

ふれあい学級は、11講座、受講者数は延べ2,131名。

家庭教育学級は、10か所（保育所（園）、幼稚園、子ども園）、受講者数は761名。

- 公民館教室事業は、学習機会と市民のふれあいの場を提供するため、年間を通して市民の学習ニーズのある教室を開催した。

文化教室は、15講座、受講者数は317名。

パソコン教室は、2教室、受講者数は24名。

- 公民館講座事業は、講座を通して想像力を育て友達づくりや交流の場を提供するため、気軽に参加できる講座を開催した。

夏のこども講座は、5講座、受講者は130名。

冬のこども講座は、3講座、受講者数は63組。

冬の講座（一般）は、1講座、受講者数は20名。

- 地区公民館運営事業については、文化協会活動など市民の自主的な活動を支援するため、公民館8館の管理運営を実施した。

〔総合評価〕

- ◎ 生涯学習の充実については、6事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」で、今後の方向性は「継続」であり、今後も市民の自主的な文化活動を支援するとともに、教室や講座等の事業の必要性や有効性等を常に検証しながら事業展開を図っていく必要がある。

〔外部評価委員の意見〕

- 放課後子ども教室推進事業については、より多くの地域住民と交流活動ができるよう努められたい。
- 公民館事業については、各種教室や活動が行われているが、常に市民の学習ニーズの把握に努め、利用者が気持ちよく活動できる内容に努められたい。

(4) 生涯スポーツの推進

〔基本方針〕

市民一人ひとりがライフステージに応じた生涯スポーツ社会の実現に向け、スポーツを通じての体力づくり・健康づくりに親しむことのできる環境づくりに努める。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- スポーツ推進委員会運営事業については、委員による各種スポーツ大会等の運営及びニュースポーツ教室を開催した。
- スポーツ少年団等助成事業及び体育協会助成事業については、市民の健全な体育及びレクリエーションの振興、青少年の健全育成のため、補助金を交付した。
スポーツ少年団 17団
体育協会 21団体
- 大会等選手派遣補助事業については、スポーツ活動の振興とスポーツ活動団体の育成を図るため、各種スポーツ大会の出場に要する経費の一部を補助した。
全国大会は7件、近畿大会は5件、県大会は9件の計21件。
- スポーツ・レクリエーション事業については、市民体力テストやニュースポーツ教室を実施した。
- 市マラソン大会事業については、道の駅「ねごろ歴史の丘」の完成後として、参加者の健康と体力づくり、生涯スポーツの普及と振興を目的に、マラソン大会を開催した。このことにより、岩出市を広くPRすることができた。
参加者数は、2,679名

- 市民運動会事業については、市民のスポーツ振興とレクリエーションの普及・浸透を図り、よりよい人間関係を育むと共に、明朗・活発な人間育成のため実施した。

参加者数は、8,606名

- スポーツ施設運営事業及びスポーツ施設整備事業については、安全かつ快適にスポーツ施設を利用していただくため、総合体育館のフリー開放や必要な点検・整備を実施した。

- スポーツ教室事業については、市民のスポーツ振興を図り、健康で明るいまちづくりを推進する事を目的に実施した。

親子教室は、164名の参加。

ヨガ教室は、61名の参加。

エアロビクスは、61名の参加。

- 総合型市民プール建設事業については、防災機能を併せ持つ市民プールを建設する目的であるが、建設工事については平成30年度繰越事業となり、設計業務について実施した。

〔総合評価〕

- ◎ 生涯スポーツの推進については、11事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が11事業で、今後の方向性は「継続」とした。今後とも、市民のスポーツニーズに応えるため、施設の老朽化対策を年次計画的に進め、各種スポーツの振興に努める。

〔外部評価委員の意見〕

- スポーツ推進委員会運営事業については、各種スポーツ大会等の運営に引き続き努められたい。
- 生涯スポーツの推進については、市民運動会やマラソン大会等、市をあげてのイベントを実施しているが、今後、気軽に参加できるスポーツイベントなど、市民のニーズにあった充実感のある催しを進めていただきたい。

(5) 文化・芸術活動の活性化

〔基本方針〕

創造性のある文化の薫り高いまちづくりに向けて、拠点となる文化施設の整備・運営の充実を図り、多種多様な芸術・文化に触れる機会を充実させるとともに、文化団体の育成・支援に努める。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- 文化祭事業については、文化活動の振興と普及を図り、参加を通じて文化への理解を深め、心がふれあう活力あふれるまちづくりを目的に開催した。減少傾向にある展示作品の出品数を確保するため、那賀高校、コスモス支援学校からの団体出品を依頼した。参加者数は台風接近に伴う警報発令のため、2日目は中止となったこともあり、減少した。

参加人数は4,475名。

- 公民館フェア事業については、文化教室及び公民館利用サークルの日頃の成果発表の場を設け、人々の出会い、ふれあいの機会をつくり、公民館活動・文化活動に対する理解と関心を深めることを目的に開催した。

コンサート 14 団体で 225 名の参加。

ギャラリー 21 団体で 288 名の参加。

チャリティー 2 団体で 39 名の参加。

- 文化協会助成事業については、市民の文化振興、文化交流に資するため、補助金を交付した。

文化協会 43 クラブ

〔総合評価〕

- ◎ 文化・芸術活動の活性化については、3事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が3事業で、今後の方向性は「継続」とした。
- 文化祭については、団体出品を増やすなどの取り組みを実施したが、出品数が横ばい状態であり、多くの市民に出品いただけるよう、企画・運営等協議し、幅広く参加できるよう努める。

〔外部評価委員の意見〕

- 文化祭事業については、新たな出品や参加者が得られるよう市内高校生への出品を呼びかけや出品の申し込み方法の見直し等、行ってはどうか。

(6) 歴史・伝統文化の振興

〔基本方針〕

郷土文化の保存継承並びにふるさと教育を更に充実させるため、文化遺産や文化的資源の保護・活用を図り、地域文化活動の支援に努める。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- 国史跡根来寺境内周辺保全管理事業については、国史跡に指定されている根来寺境内及びその周辺の歴史に培われた文化遺産を守り、後世に伝えていくため、委員会を開催し、委員の指導助言を参考に適正な保全を図った。
- 埋蔵文化財活用事業については、ねごろ歴史資料館において、根来寺境内等の地域の特色ある埋蔵文化財の総合的な公開活用を実施した。
- 根来の子守唄保存事業については、ふるさとに伝わる文化遺産（民話・伝承・子守唄など）を題材に、唄やオペラ、創作落語を市民や各種団体との協働により事業を行い、ふるさとの魅力をより一層伝えることが出来た。
「～童謡と民話と子守唄で綴る～ ふるさと感動物語」
来場者数 参加者 340名

〔総合評価〕

- ◎ 歴史・伝統文化の振興については、3事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が3事業で、今後の方向性は「継続」とした。
- 根来の子守唄保存事業については、これまでの実践を活かしながら伝統文化の保存・継承に努めていく。

〔外部評価委員の意見〕

- 伝統ある文化遺産を保全し、伝統文化を未来に継承していくため、地域文化を育成する活動の支援を行い、文化遺産や文化的資源の保護及び活用を図るとともに、市民への普及・啓発に取り組みたい。

(7) 人権尊重の推進

〔基本方針〕

同和問題はもとより、女性、子ども、高齢者、障害者などあらゆる人権問題の解決に向け、市民の人権意識の高揚に努める。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- 人権啓発事業については、人権尊重思想の普及・高揚を図り、市民に人権問題に対する正しい認識を広めるため、講演会の開催や小中学生の人権作文集の発行、人権ポスターの展示などを実施した。

〔総合評価〕

- ◎ 人権尊重の推進については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が1事業で、今後の方向性は「継続」とした。
- 女流落語家を講師に迎え、男女共同参画・女性の視点からの様々な人権についての講演会を開催した。
今後も多くの方に参加いただけるよう、創意工夫を凝らし人権問題に関する正しい認識を得ることに努める。

〔外部評価委員の意見〕

- 人権教育・啓発の推進は、庁内の関係部署はもとより、様々な関係機関と連携を図りながら充実した事業を展開されたい。

【岩出図書館】

(1) 図書館事業の充実（子ども読書活動推進事業）

〔基本方針〕

学校・家庭・地域がそれぞれの機能を発揮し、子どもが自主的に読書活動を行えるよう、学校や図書館などの関係機関、民間団体等と緊密に連携し、相互に協力しながら、子どもの発達段階に応じた読書活動を積極的に推進する。

また、図書館及び学校図書館の図書資料や施設・設備を充実し、子どもの身近なところに読書のできる環境を整備するとともに、読書の意義や重要性について、市民の理解と関心を深める。

〔平成29年度の主な取組状況〕

○ 図書館司書派遣事業では、市内小中学校に各37日学校司書を派遣し、児童・生徒への読み聞かせ・ブックトーク・アニメーションや授業で使用する図書の収集、ビブリオバトルに関する指導をするなど、読書支援・学習支援を行った。また、岩出市で初めて「図書館を使った調べる学習」地域コンクールを実施し、全小中学校で、学校図書室や岩出図書館から調べ学習で使用する図書を収集したり、調べ学習をサポートしたりするなどの支援を行った。

団体貸出については、小学校は前年度に比べ貸出冊数が16%減少しているが、中学校は前年度に比べて2.2倍に増加している。

○ うちどくノートに掲載している「うちどくにおすすめのブックリスト」を一部リニューアルし、市内の小中学生のうち配付対象学年の児童・生徒にうちどくノートを配付するとともに、うちどくの啓発のため、おすすめの図書のリストから出題する「うちどくクイズ」や各小中学校から選出された児童・生徒の「うちどくの記録」の展示を実施した。また、小学校低学年から習慣的にうちどくに取り組んでもらえるよう、小学校の就学時健診の際に、図書館職員が各小学校に出向き、保護者への啓発を直接行った。

〔総合評価〕

◎ 子ども読書活動推進事業については、2事業の評価を実施し、「期待どおり」が1事業、「やや下回る」が1事業で、今後の方向性は2事業とも「継

続」とした。

- 図書館司書派遣事業では、期待したほど調べる学習コンクールへの出品のための団体貸出がなかった。団体貸出の利用が増えるよう、さらに学校との連絡を密にし、早い段階でテーマを把握するとともに、引き続き教員への利用啓発を図る。
- 「うちどくクイズ」への参加者が少ないので、PRやクイズ用紙の配付の仕方を工夫しながら、学校と連携し、参加者の増加を図る必要がある。また、小学校の就学前健診時の保護者への啓発は効果的であるので、今後も続ける。

〔外部評価委員の意見〕

- 「図書館司書派遣」、「ビブリオバトル」、「うちどくノート」など、小・中学校との連携が進んできている。今後も、さらに連携を強め、それぞれの取組の充実に努められたい。

(2) 図書館事業の充実（図書館運営事業）

〔基本方針〕

図書紹介、行事案内やサービス内容など様々な情報を発信したり、おはなし会、イベント事業、講演会を開催したりすることにより、市民の図書館に対する理解や関心を深め、図書館利用の促進を図る。

また、岩出図書館資料収集基準に基づき、公共図書館の役割、利用者各層の要求及び社会の動向を十分配慮して、広く市民の文化、教養、調査、研究、趣味、娯楽等に資するため、図書等を幅広く収集し、地域密着型図書館として、市民の身近にあって、「いつでも、どこでも、誰にでも」図書館サービスが受けられるよう努める。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- 平成29年4月から、和歌山県内在住者・近畿大学生物理工学部通勤通学者に利用対象を拡大し、新規利用者の開拓を図った。また、5月には、平成18年4月1日の開館以来の岩出図書館入館者が200万人に達し、記念セレモニーを行った。

平成30年3月から、新図書館システムの稼働に伴う岩出図書館ウェブサ

イトやWebOPACのリニューアル、デジタルサイネージの導入等により、利用者の利便性がさらに向上した。

入館者数は、197,047名

貸出点数は、416,228冊

貸出人数は、111,532名

登録者数は、31,528名

- 図書等購入事業については、計画通り資料を購入できた。できるだけ利用者の要望に応えながら、資料の充実を図った。また、高校生の利用が増加するよう、大学入試過去問題集（赤本）を駅前ライブラリーに配置した。

図書

一般図書 7,769冊

児童図書 3,567冊

参考図書 268冊

計 11,604冊

視聴覚資料

DVD 100枚

CD 100枚

計 200枚

〔総合評価〕

- ◎ 図書館運営事業については、2事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が2事業で、今後の方向性は「継続」とした。
- 新規登録者数が約1.5倍に増加し、貸出点数も4%増加した。入館者数は、前年度より若干減少しているが、警報発令等による臨時閉館がなければ増加していたものと考えられる。

以前から年々入館者が減少していることが課題であった駅前ライブラリーについては、増加に転じている。これは、小学生の利用が増加したことによるものである。高校生の利用が増加するよう、那賀高校図書室と連携し、大学入試過去問題集（赤本）の所蔵をさらにPRする。駅前ライブラリーの入館者が増加した一方で、上岩出地区公民館図書室の入館者数、貸出点

数、貸出人数ともに大きく減少しているので、蔵書構成の見直しを図る必要がある。

イベントについては、今後も、市民の関心の高い目新しいイベントを開催し、新規利用者や貸出点数の増加に繋げる。

- 平成29年度末で、岩出図書館（分館・分室含む）の蔵書冊数は303,462冊（うち本館は266,006冊）となった。今後も、利用者のニーズや社会の動向を把握し、資料収集を行うとともに、引き続き郷土資料の充実を図る。

〔外部評価委員の意見〕

- 本館だけでなく、分館分室の利用者のニーズを把握し、利用者の関心の高いイベントの開催や蔵書構成の見直しなどをするとともに、報道機関などによるPRを活用し、利用者のより一層の増加に繋げていただきたい。

(1) 文化・芸術活動の活性化

〔基本方針〕

文化関係団体の育成を図るとともに、活動拠点となる文化施設の整備・運営の充実に努める。

創造性のある文化の薫り高いまちづくりに向けて、図書館や民俗資料館とともに、埋蔵文化財展示施設や旧和歌山県議会議事堂と一体となった文化・観光拠点施設など、それぞれの基本的な役割と機能を十分踏まえた上で、時代や市民のニーズに対応すべく地域文化を育成する活動の支援に努める。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- 民俗資料館展観事業では、市民に郷土の歴史・文化に関心と理解を深めていただくことを目的に収集資料品展、根来寺所蔵宝物展、所蔵品展、秋季企画展、寄贈品展、根来塗講座受講生作品展示、岩出市文化協会作品展示を開催した。

まず、収集資料品展は前年度までの民俗資料館資料収集事業で購入した根来漆器を常設展示するもので、9月と3月に展示品の入替えを行い、根来塗について理解を深めていただいた。

次に、根来寺所蔵宝物展は夏季に「根来寺の能面」をテーマにした展示を行い、根来寺の能面を通じて根来寺の歴史と文化についての理解を深めていただき、寄贈品で実施した所蔵品展の「くらしを支えた道具」は、3学期に小学校3年生が社会科で「昔のくらし、昔の遊び」をテーマにした学習を行うのに合わせて今年度から開催時期を変更して実施した。

そして、秋季企画展の「桃山の工匠 - 紀州根来の大工棟梁たち - 」では、豊臣秀吉の紀州攻めで根来寺が壊滅的打撃を受けた後、その秀吉の信頼の厚かった高野山の僧木食応其や江戸幕府などを介して全国各地の寺社や霊廟の造営に携わるようになった紀州根来出身の大工棟梁たちの業績を紹介し、前年度に頂いた寄贈品の一部を紹介する寄贈品展を開催した。

最後に、根来塗講座受講生と岩出市文化協会6団体の作品展示では、日頃の活動成果発表の場としてご利用いただき、作品展示を一目見ようと訪れる市民の交流の場として賑った。

収集資料品展入館者数	40,034名
根来寺所蔵宝物展入館者数	4,011名
所蔵品展入館者数	2,933名
秋季企画展入館者数	7,340名
寄贈品展入館者数	7,038名
根来塗講座受講生作品展示入館者数	5,708名
岩出市文化協会作品展示入館者数	5,565名(6団体の延べ人数)

〔総合評価〕

- ◎ 文化・芸術活動の活性化については、1事業の評価を実施し、総合評価は、「期待どおり」、今後の方向性は「継続」とした。
- 根来寺の所蔵する宝物・関連する資料や民俗資料館の所蔵品の展示を通じて、1人でも多くの方に根来寺や岩出の歴史・文化に関心や理解を深めていただけるようポスターやチラシの掲載依頼施設を増やす等の広報活動の充実を図っていく必要がある。

〔外部評価委員の意見〕

- 民俗資料館の秋季展等の展示にあわせて岩出図書館においてそのテーマに関連した書籍の紹介コーナーを設けている。このように2つの館が連携した取組は互いの集客力の向上に寄与していると考えられる。
そこで、さらに連携して取組を実施する施設を増やして民俗資料館の集客力の向上を図るとともに、根来寺周辺の観光振興に努められたい。

(2) 歴史・伝統文化の振興

〔基本方針〕

文化遺産や文化的資源の保護及び活用を図るとともに、伝統芸能の伝承を促進し、文化・芸術の振興を図る。

〔平成29年度の主な取組状況〕

- 民俗資料館歴史学習・講座事業は、市民の方に多様な視点から郷土の歴史や成り立ちについて学びふれあう機会を提供することを目的に歴史講座、歴

史学習会、秋季企画展講演会を実施した。

まず、歴史講座は「覚鑱上人 - 思想・信仰面を中心に - 」と「船戸箱山古墳の発掘調査と出土遺物」をテーマに2回開催し、根来寺や郷土岩出の歴史について理解を深めていただいた。

次に歴史学習会は、小学校4～6年生を対象に古代のアクセサリーを自ら作る体験学習「勾玉づくり」をテーマに夏休み子ども歴史学習会を3回開催し、参加者には好評であった。

また、秋季企画展講演会は、「桃山建築と根来大工」をテーマに開催し、桃山建築の特質や根来大工の業績等について理解を深めていただいた。

歴史講座	第1回参加者数	92名
	第2回参加者数	65名
夏休み子ども歴史学習会	第1回参加者数	46名
	第2回参加者数	36名
	第3回参加者数	26名
秋季企画展講演会参加者数		52名

〔総合評価〕

- ◎ 歴史・伝統文化の振興については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」、今後の方向性は「継続」とした。
- 「勾玉づくり」をテーマに開催した夏休み子ども歴史学習会は、3回実施したが、3回目が募集定員の半分を少し超える参加者であったので、来年度は「勾玉づくり」を2回にして、1回は新たなテーマを選定して実施する必要がある。

また、歴史講座はアンケート結果で要望の多い根来寺関連や郷土岩出の歴史等の中で特に関心や注目度の高いテーマのものを実施していく。

〔外部評価委員の意見〕

- 夏休み子ども歴史学習会については、近隣の資料館等の取組も参考にしながら新しいテーマを取り入れて実施していただきたい。
- 歴史講座・講演会については、多くの市民の方に参加してもらえよう、広報活動のさらなる充実に努められたい。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【教育総務課】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
1	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(教育環境の充実)	いわてアスリートクラブ事業	陸上競技を通じて、児童の心身の健全育成を図る。	毎週土曜日の午前中に、中央小学校又は大宮緑地総合運動公園を使用して、岩出市内の小学生(3年生以上)を対象に、陸上競技活動を実施する。	b	継続	登録者は297名で昨年度よりは29名増加した。3年生の登録者が多く、参加児童ののべ人数は昨年比359名増加している。出席率も昨年より4.3%増加し、1回当たりの平均参加者数は昨年比25名増の141名。 他のスポーツクラブと兼ねる児童が多く、競技力が高くても大会への参加が難しい場合がある。 指導者は、小学校の教員が多いが、保護者が4名、いわてアスリートクラブ出身の大学生が1名指導者登録し、毎回平均13名参加している(のべ365人)。 指導者は全てボランティアであるため、交通費だけでも支払えるよう予算措置を検討したい。
2	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(教育環境の充実)	適応指導教室事業	心理的要因等により学校生活に適応できず登校できない児童及び生徒の在籍校への復帰を目的とする。	不登校児童・生徒に対し、在籍校への復帰や自立を図るための指導及び援助、不登校児童・生徒に対する教育相談、学校等関係機関との連携を行う。	b	継続	適応指導教室では、学習補充に加えて、定期考査や英語検定の受験にも取り組むことができた。平成30年1月より、県教育委員会からスクールカウンセラーを配置いただき、入室生徒等へのカウンセリングを実施することができた。平成30年度においても、早い段階でスクールカウンセラーを配置いただけるよう県教育委員会に要望していきたい。 本教室の活用を促進するとともに、在籍校と連携を更に図り、通級しやすい環境づくりと入室者の増加に伴い環境の整備も課題である。 なお、中学3年生の入室者及び体験者全員が高等学校へ進学している。
3	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(教育環境の充実)	特別支援教育就学奨励費扶助事業(小・中学校)	特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費を国の基準により支給し、特別支援教育の振興を図る。	学校給食費、修学旅行費、校外活動費、学用品費、新入学児童・生徒用品費、通学用品費に対する扶助費である。 年3回(7月、12月、3月)支給する。	b	継続	特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者の経済的な負担が軽減され、特別支援教育の振興を図ることができた。 本事業の果たす役割は大きく、今後も事業の継続が必要である。
4	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(教育環境の充実)	要保護・準要保護児童・生徒扶助事業(小・中学校)	経済的理由によって就学が困難と認められる児童・生徒に対し、就学の援助を行い、義務教育の円滑な実施を図る。	学校給食費、修学旅行費、校外活動費、学用品費、新入学児童・生徒用品費、通学用品費に対する扶助費である。 年3回(7月、12月、3月)支給する。	b	継続	要保護・準要保護児童・生徒の保護者の経済的な負担が軽減され、義務教育の円滑な実施を図ることができた。 経済的理由により就学困難な家庭にとって、本事業の果たす役割は大きく、事業の継続が必要である。 また、修学旅行費について、これまで実施後の支給であったが、保護者の経済的負担を考え、事前支給を実施した。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【教育総務課】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
5	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(教育環境の充実)	中学校防災訓練及び防災ジュニアリーダー育成事業	中学生の危機意識を高めるとともに、災害時の地域防災活動において中心的な役割を担うことを意識づけるために防災訓練を実施する。	防災訓練は、各中学校を会場に3年生全員を対象として実施する。防災ジュニアリーダー育成事業は、夏休みの2日間、那賀消防組合消防本部及び中消防署を会場に、中学生の希望者を募り実施する。本事業の受講者は、岩出市地域防災訓練にも参加する。	b	継続	昨年度までの反省から地震の揺れに対する危機意識に対して、津波防災の危機回避の意識が低いため、視聴覚教材を用いた津波防災学習を新たに追加し、危機回避に対する意識の向上を図った。 防災訓練は平成20年度から、毎年両中学校で実施しており延べ5000名以上の生徒が防災訓練に参加している。初期消火作業や、心肺蘇生法、止血法等実践的に学ぶことで、有事の際に支援に回ることを期待して今後も継続し取り組んでいく。
6	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(教育環境の充実)	小・中学校施設改修事業	小・中学校の施設劣化等に伴う補修及び通学路の整備工事を施工し、施設の安全確保及び耐用年数延長を図る。	児童・生徒の安全確保及び教育環境の整備・充実を図るため、校舎等の改修を行う。	b	継続	工事の施工により、施設の耐用年数の延長及び通学路などの教育環境の整備や児童・生徒の安全確保ができた。 今後も、老朽化対策に加え個別施設ごとの長寿命化計画を平成32年度までに策定し、施設等の維持管理の徹底を図るとともに、教育環境の整備や児童・生徒の安全確保のため、実施計画に基づき教育環境の整備を行なう。
7	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(教育環境の充実)	通学路整備事業	通学路の危険箇所の把握に努め、関係機関等との合同点検を実施することで、児童生徒の通学時の安全確保に努める。	各学校より、危険箇所の報告を受け、道路管理者、岩出警察署及び各関係機関との連携を図り、通学路の危険箇所を改修し、児童生徒の安全を確保する。	c	継続	各学校より危険箇所の報告を受け、学校、PTA、教育委員会、土木課、岩出警察署、那賀振興局等の関係機関と合同で通学路を点検し、危険箇所については改修工事を行うなど、通学路の整備を行った。 また、通学路危険ブロック塀等改善事業については、事業に関する相談はあったものの申請にはいかなかったが、児童・生徒の安全確保を図るために必要な事業であり、今後も周知に努める。
8	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(教育環境の充実)	小・中学校教材・教具等整備事業	教材・教具を整備し、学習に活用することで、児童・生徒の学習意欲の向上、教職員の指導の効率化を図る。	各学校で希望する教材・教具及び図書を選定、優先準備を付けたリストを作成させ、そのリストに基づき整備を行う。その際、教育委員会においても改めてリストに挙げた教材・教具を精査し、効率的な整備が出来るよう努める。	b	継続	小・中学校とも教材・教具の充実・更新を図ることができ、児童・生徒の学習意欲向上及び教師の指導効率化に寄与した。また、図書については、全ての小・中学校において、標準冊数に達している。図書購入については、新刊発行の時期等に新たに購入できる方法を岩出図書館等の購入方法を参考に検討したい。 新学習指導要領等の実施により、新たな教材・教具等の計画的な購入に努めるとともに理科教育設備整備事業(理振法)の補助金も活用していきたい。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【教育総務課】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
9	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(教育環境の充実)	児童携帯用防犯ブザー補助事業	防犯ブザー購入費の一部を補助することにより、携帯率を高め、児童を犯罪から保護し、危険を防止する。	各校PTAが防犯ブザーを購入する費用に対して、その1/2を補助する。ただし、児童1人につき1回限りとし、限度額400円。	c	継続	平成29年度の申請率は28.0%。(所持率57.0%) 登下校における犯罪等防止に効果を挙げているが、児童の好みに合った商品を独自に購入する家庭も多数あり、申請率は低い。 児童の安全を守るための事業であるため、今後も引き続き広報活動を行うとともに、携帯率向上に向け啓発等に努める。
10	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(学力の向上)	学力向上実践研究事業	学力向上先進校(地域)における研修や勤務校での実践研究を行うことで、学力向上に向けた専門性とリーダー性を備えた教員(中核教員)の養成と、身に付けた学力向上に効果的な指導方法を活用した授業実践の普及により、児童生徒の学力向上を図る。	(1)教職員の指導力・資質向上を図るため、学力向上先進校(地域)に教員を派遣し、実地研修を行う。(先進校派遣) (2)学力向上に係る研究発表会等に、教員を派遣する。(研究発表会派遣) (3)派遣教員の活用により、研修成果を市全体に普及・啓発し、児童生徒の学力向上に取り組み、自校の学力向上の推進を図る。	c	継続	県外の先進校を視察することにより、自校にはない実践的な取組を知り、各自の実践に取り入れられたり、自校及び市内の各校に伝達することができた。 ・(市)夏季教職員研修会や校内での報告 ・管理職研修時での公開授業の実施 さらに一歩前進して、各校で学校全体の共通の取組として実践し、年度末の指標を明らかにした検証で達成状況を図っていきたい。 教職員の授業改善や児童生徒の学力向上を客観的な指標(数値)結果として成果を出していきたい。
11	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(学校給食の充実)	学校給食運営事業	学校給食衛生管理基準に基づき、岩出市学校給食共同調理場の施設の整備や食器等の購入を行うとともに学校給食の運営の充実を図り適正化に努める。 また、学校給食への地場産物の活用は、児童生徒が地域の食材を通して地域の自然や文化、生産に携わる人々の苦労や努力、食に対する感謝の気持ちを育むことを目的とする。 給食費の徴収については、お互いの連携を密接に行い、学校においては担任教諭や給食関係者ができる範囲の協力をして給食費完全徴収に取り組む。	学校給食を円滑に提供するための岩出市学校給食共同調理場の設備や食器等の整備について年次計画を立てて進める。 また、地産地消を推進するために地元産の食材を学校給食の食材として使用する献立づくりをする。 給食費については学校と連携を図るとともに、支払督促申立による債権差押により徴収率の向上に努める。	b	継続	学校給食は、栄養バランスの取れた献立となっている。 地産地消率は57.0%、現年度給食費徴収率は99.52%であった。 今後も地元産の食材を取り入れた栄養バランスのとれた献立を提供し、地産地消率を維持向上させるとともに、安心して美味しい献立をさらに推進していく。 給食費の徴収については、特に現年度の完全徴収の強化に努める必要があることから、より一層学校との連携を図り滞納気味な家庭には、児童手当からの徴収同意など、徴収率の向上に努めるとともに、新たな滞納者を増やさないう現年度の完全徴収に努める。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【教育総務課】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
12	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(家庭・地域との連携)	紀の国緑育推進事業	児童が自然と触れ合う機会をつくり、環境学習の効果を高める。	県が実施する、紀の国森づくり税を財源とした補助事業の助成金を利用する。助成を受けるために、紀の国緑育推進事業補助金交付要綱及びその取扱要領に基づき事業計画書等を作成。それに基づき、学校教育の一環として森林を利用した体験学習を行う。	b	継続	自然と触れ合う機会が減少している現代の子どもたちにとって、本事業は貴重な体験ができる事業であり、森林や林業について学ぶだけでなく、環境への興味・関心を高める役割を果たしている。 事後学習では、森林体験を振り返り、まとめ学習や作文、間伐材を用いた木工を行うことで、学習効果を高めることができた。今後も、体験学習をより生かせるよう、事前・事後学習の充実に努める。
13	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(家庭・地域との連携)	和歌山を元気にする職場体験事業	職場体験事業を実施することにより、生徒に望ましい勤労観及び職業観を身に付けさせる。	各中学校において、事業所の協力を得て、中学2年生を対象に3日間の職場体験を実施する。	b	継続	接遇に関するマナー教室を実施することで、社会の一員としての心構えやマナーを身につけてから職場体験に臨むことができた。 今後の課題として、事前・事後活動をしっかりと教育課程に組み込み、キャリア教育の視点で生徒にも目的意識をもって学習させる。そのためには、より多くの職種の事業所の確保が必要であり、事業所数の確保のため、紀の川市及び商工会との連携を強化し、事業所確保に努めたい。
14	歴史を守り文化と国際化を育むまち	国際化の推進(国際意識の高揚)	外国青年招致事業	中学校の英語の授業において、外国青年の補助により、英語を多用した授業を実践することにより、外国語教育の充実及び推進を図る。	外国青年を招致して、ネイティブな授業を実施する。 岩出中学校、岩出第二中学校に各2週間ごとに英語授業の助手として活用する。	b	継続	ALT自身が日本人教師と積極的に教材研究を行い、創意工夫した授業に取り組むことができた。外国人青年が学校へ行くことで、外国語教育の充実と国際交流の進展が図られた。 国際化が一層進展していく中、国際社会で活躍する日本人の育成において、英語教育や国際理解教育の充実に大きな役割を果たしている。 今後は、平成32年度の新学習指導要領の改訂に伴い、平成30年度から小学校への配置に向けて計画をすすめる。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【生涯学習課】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
1	心豊かな人が育つまち	学校環境の充実(家庭・地域との連携)	学校支援地域本部事業	学校・家庭・地域が一体となって子どもの育ちや学びを支える取組を推進する。	学校支援・学習支援・校内環境整備など学校支援ボランティアが学校と協力し活動する。	b	継続	地域の方々による学校支援ボランティアの活動により、授業補助、ゲストティチャー、小学校芝生の維持管理を実施。今後も継続し実施していくとともに、学校支援ボランティア募集チラシを配布し、新たな協力者を募集した。コミュニティスクールの実施に向け、教育総務課と連携しながら、他校での実施も検討する必要がある。
2	心豊かな人が育つまち	健全育成のための環境づくり(青少年をとりまく環境の整備)	青少年健全育成事業(青少年育成市民会議事業)	家庭・学校・地域社会と行政が連携し、安全な環境づくりを目指し、次代を担う青少年の健全な育成を図る。 県の指針に基づいた取組の実施に努め、効果を得る。	青少年の健全育成を図るため、様々な分野からの働きかけを行い、総合的に効果が上がるよう取り組む。 (活力ある地域活動・家庭教育支援活動・意識啓発のための活動・関係機関との連携、情報収集・子どもを守るための活動)	b	継続	「市民大会」や「スポレクフェスタ」など各事業において、子どもたちを中心とした活躍の場を提供。新たなプログラムの取組を行うことができ参加者にも好評であった。少子化が進む中、地域活動をどのようにしていくかが課題となっている。今後も各事業に取組、関係機関との連携により「あいさつ運動」や「見守り活動」の充実に努める。
3	心豊かな人が育つまち	健全育成のための環境づくり(青少年の自立と成長の促進)	成人式事業	新成人を励ますとともに、社会人としての自覚を促す。	式典、イベント など	b	継続	イベント出演者の決定を採用3年目までの職員による企画提案書採点方式で決定。若者の意見を採用することで、イベントは好評であった。スムーズな運営のため、リハーサルや協力職員への事前説明を行った。今年度は記念撮影を廃止し、撮影ブースを設置。特に混乱もなかった。成人年齢引き下げ法案成立についても情報収集していく。
4	生涯学習できるまち	生涯学習の充実(家庭・地域教育の充実)	放課後子ども教室推進事業	安全・安心な子どもの居場所を設け、地域の方々の参画を得て、勉強や文化活動、地域住民との交流活動を推進する。	学習活動、文化活動、地域住民との交流活動 など	b	継続	地域の方々の協力を得て、学校の空き教室を利用し、各種教室を開催、多数の小学生が参加した。今後も、協力者の確保に努めるとともに、学校との連絡を密にし、参加者の確保に努める。
5	生涯学習できるまち	生涯学習の充実(家庭・地域教育の充実)	生涯学習を考えるつどい事業	より豊かに充実した生活を送るための生涯学習機会を提供する。	文化祭の前夜祭として生涯学習を考えるつどいを開催	b	継続	次年度以降も、コンサート等の催しを開催する。
6	生涯学習できるまち	生涯学習の充実(家庭・地域教育の充実)	公民館事業(ふれあい・成人・家庭教育)	60歳以上対象のふれあい学級、20歳以上対象の成人講座、幼稚園・保育園(所)の保護者対象の家庭教育学級を開催し、相互の交流や積極的に地域社会に寄与するための学習活動を行う。	ふれあい学級 年11回／5学級 成人講座 年10回 家庭教育学級 年10回	b	継続	学習機会の提供と、市民のふれあいと交流を深めることができた。 参加者の希望に合わせた教室開催に向け、内容充実を図っていく。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【生涯学習課】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
7	生涯学 習でき るまち	生涯学習の充 実(公民館事 業の充実)	公民館教室事業	市民の学習ニーズに 合った教室を開催し、学 習機会の提供と、市民 のふれあいの場をつく る。 高度情報化社会に対 応するために、市民の パソコンの操作やデー タの整理等の基礎能力 の習得を目的とする。	書道教室、英会話教室、中国語 教室、男の料理教室、お菓子作り 教室、陶芸教室、子どもクッキ ング、コーラス(子ども)教室等、15 教室を平成29年5月～平成30年 3月開催 パソコン基礎教室の開催(マウス 操作など基本操作からワード基礎 のコース)平成29年6月5日～平 成30年3月19日午前・午後各26 回実施	b	継続	学習機会の提供と、市民のふれあいの場をつくること ができた。 11か月間を通しての開催であるため、特に回を重ねて進 行していく教室を含め、途中退会する方があつた。今後も学 習ニーズに合った教室開催に向け、内容充実を図ってい く。パソコン教室については、OSが旧バージョンとなってい るため、最新のOSを備えた機器の導入をはかるなど、見直 しを図っていく。
8	生涯学 習でき るまち	生涯学習の充 実(公民館事 業の充実)	公民館講座事業	気軽に参加し、講座を 通して創造力等を育 て、友達づくりや市民の 交流の場をつくることを 目的とする。	夏のこども講座 平成29年7月24・25・26日、8月 7・8・9日(サマークッキング実施) 延べ130名(8月8日は警報発令 で中止) 冬のこども講座 平成30年1月20・27日、2月4日 (親子クッキング実施)親子延べ6 3組 冬の講座 平成30年1月31日(簡単ストレッ チと指もみマッサージ)20名	b	継続	夏のこども講座は毎回定員を超える応募があり、6年生、 初めて受ける方を優先に抽選。今後も人気の高い講座を 中心に、企画調整を図り、参加者の確保に努める。
9	生涯学 習でき るまち	生涯学習の充 実(公民館事 業の充実)	地区公民館運営事業	生涯学習を推進する ための拠点として機能 の整備充実を図る。	地区公民館の運営・管理	b	継続	市主催の各種教室や文化協会の活動など、住民ニーズ に対応した運営に努めている。今後も、多様化する住民 ニーズに対応した場と機会の確保に努める。 また、通常利用における設備等の修繕、施設用備品の修 繕・交換について緊急性の高いものから対応に努め、順次 供用開始地区に所在する施設から公共下水道接続を計画 的に行っていく。
10	生涯学 習でき るまち	生涯スポーツ の推進(ス ポーツ・レクリ エーションの 振興)	スポーツ推進委員 会運営事業	市民一人ひとりが生き がいをもちて人生を送 ることができる活力ある まちづくりの実現に向 け、スポーツを通じて生 涯学習を推進するた め、地域の皆さんとの 連携の中で、スポーツ の企画・立案・実施を行 い、生涯スポーツの振 興を図る。	地域に根ざしたスポーツやレクリ エーションの振興事業の企画・立 案・実施並びに普及活動を展開	b	継続	岩出市民運動会・マラソン大会等の運営協力を得られ た。 スポーツ推進計画によるニュースポーツ教室の実施を継 続していく。 障害者スポーツの推進として、「ボッチャ」をニュースポー ツ体験会で実施した。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【生涯学習課】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
11	生涯学 習でき るまち	生涯スポーツ の推進(ス ポーツ・レク リエーションの 振興)	スポーツ少年団等 助成事業	スポーツ少年団の普 及と育成及び活動の活 性化を図り、青少年の スポーツを振興し、もっ て青少年の心身の健全 な育成に資する。	市スポーツ少年団各団への助成	b	継続	加入団体は17団体 減少傾向のある団の団員数を増やすこと、指導者の高齢 化対策が課題である。
12	生涯学 習でき るまち	生涯スポーツ の推進(ス ポーツ・レク リエーションの 振興)	体育協会助成事業	市民の健全な体育及 びレクリエーションの奨 励に努め、社会人及び 青少年の運動競技の振 興とその育成強化を補 助する。	体育協会への助成	b	継続	体育協会21団体に対して補助 市体育行事に参画して事業の協力を得ることができた。
13	生涯学 習でき るまち	生涯スポーツ の推進(ス ポーツ・レク リエーションの 振興)	大会等選手派遣補 助事業	スポーツ活動の振興 とスポーツ活動団体の 育成を図るため、各種 スポーツ大会の出場に 要する経費の一部を補 助する。団体・個人への 旅費補助(特定団体)	全国・近畿・県大会への補助 (体協・スポ少)	b	継続	全国大会:体育協会1件、スポーツ少年団6件 計7件 近畿大会:体育協会2件、スポーツ少年団3件 計5件 県大会 :体育協会4件、スポーツ少年団5件 計9件
14	生涯学 習でき るまち	生涯スポーツ の推進(ス ポーツ・レク リエーションの 振興)	スポーツ・レク リエーション事業	多様化する市民のス ポーツ・レクリエーション ニーズを把握し、市民 のスポーツへの関心や 参加意欲を向上させ、 交流を促進するため、 スポーツ大会やスポー ツ教室などを開催する。	市民スポーツ大会・教室の開催 年齢を問わず気軽に行なえる ウォーキング教室の開催	b	継続	市民体カテストやニュースポーツ教室の開催 近畿大学とニュースポーツ大会の共催などを実施 スポーツ推進計画に基づいて各種事業を実施していく。
15	生涯学 習でき るまち	生涯スポーツ の推進(ス ポーツ事業の 充実)	市マラソン大会事 業	市民及び参加者に、 生涯スポーツの普及と 振興を推進するととも に、マラソン大会を開催 することにより、岩出市 を広く内外にアピール する。	一般15km・5km 小学生3km ファミリー2kmに分け、早春の根 来寺を走る。	b	継続	道の駅「ねごろ歴史の丘」の完成後初めての大会であつ た。市内外から大勢のランナーに参加していただいたが、 今後に向けては参加者の安全対策や岩出市内を限定する コース設定、距離等について将来的に検討していく必要が ある。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【生涯学習課】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
16	生涯学習 習できる まち	生涯スポーツ の推進(ス ポーツ事業の 充実)	市民運動会事業	全ての市民が一堂に 会し、スポーツ・レクリ エーション活動に親し み、市民相互の親睦と スポーツを通しての健 康・体力づくりを行なう 動機づけを図るととも に、市民の交流を深め ることを目的とする。	参加者が「体育の日」の1日をス ポーツで楽しめるよう、運動会種目 及びアトラクションを設定する。	b	継続	毎年多くの市民参加が得られているが、式典のスピード アップや閉会時まで参加いただくことが課題である。それに 伴うプログラムの変更について再度検討していく。
17	生涯学習 習できる まち	生涯スポーツ の推進(ス ポーツ事業の 充実)	スポーツ施設運営 事業	市民に安全かつ快適 に施設を利用してもら い、気軽にスポーツ・レ クリエーション活動を楽 しむとともに、健康づく りや交流を深めるため の場を提供する。	市民に安全かつ快適に施設利用 してもらうため、日々施設内点検を 心がけるとともに、サービス向上に 取り組む。 卓球・バドミントン等・スポーツで 体力づくり・余暇を楽しむ。	b	継続	施設の整備や機器の購入に関しては、年次計画により実 施していく。 施設の老朽化に伴うメンテナンスについては、整備箇所 等を考えて検討が必要である。 施設利用に関しては、不定期ではあるが大勢の方々に、 フリー開放時を利用してもらっている。
18	生涯学習 習できる まち	生涯スポーツ の推進(ス ポーツ環境の 充実)	スポーツ施設整備 事業	市民の方々に、安全 かつ快適に利用してら う。	施設の整備・点検、改修工事等 を実施する。	b	継続	当初予定していた改修工事等は予定通り実施できた。 突発的な工事や修繕することが多かったが、予備費充当 で対応できた。 今後も、事前点検を重点的に実施していく。
19	生涯学習 習できる まち	生涯スポーツ の推進(ス ポーツ環境の 充実)	スポーツ教室事業	スポーツ教室開催に より、スポーツの楽しさ を伝えるとともに、健康 の増進を図る。コミュニ ティの場を提供する。	健康体力の増進及びふれあいの 場を提供する。	b	継続	ヨガ教室 61名、エアロビクス教室 61名、親子体操教 室 164名の参加。
20	生涯学習 習できる まち	生涯スポーツ の推進(ス ポーツ環境の 充実)	総合型市民プール 建設事業	防災機能を併せ持つ 総合型の市民プールを 建設することで、多様化 する市民のスポーツ ニーズの一助とする。	防災機能を併せ持つ総合型の市 民プールを建設する。	b	継続	当初は、平成30年度の建築完成を目指していたが、国 庫補助金の採択がされなかったため、建築工事を平成30 年度繰越事業となり、平成31年度からの計画的な運営事 業等について考えていく。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【生涯学習課】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
21	生涯学 習できる まち	文化・芸術活 動の活性化 (文化活動の 推進)	文化祭事業	文化活動成果発表の 機会を提供し、文化活 動の振興と普及を図 り、文化への理解と市 民のふれあいの場を作 る。	日時:平成29年10月28日(土) ～10月29日(日) 場所:市民総合体育館ほか 内容:(テーマ「ひろげよう 文化 の輪」) ○作品展示 ○芸能発表 ○各種イベントコーナー	b	継続	展示出品数の確保を図るため、県立那賀高校やコスモス 支援学校からの出品を得た。出品申込期間を前年の1か 月間から一か月半に延長し、2か月にわたって広報に出品 作品募集記事の掲載を行った。全体ではほぼ前年並みの 出品数を確保できたが、種目ごとに見ると減少しているも の、逆に増加しているものもあり、年ごとに変動するため、 種目ごとの配分見直しは必要である。平成29年度は警報 発令により2日目の開催が中止となり、初日も次第に天候 が悪化していく中の開催となり、全体の入場者は減少した が、大きな事故もなく無事会期を終えることができた。
22	歴史を 守り文 化と国 際化を 育むま ち	文化・芸術活 動の活性化 (文化活動の 推進)	公民館フェア事 業	公民館文化教室、公 民館利用サークルによ る成果発表の場の提供 と、市民のふれあいの 機会をつくることを目 的とする。	日時:平成30年3月3日(土)～3 月4日(日) 場所:市総合保健福祉センター 内容:(「岩出市民ふれあいまつ り」と同時開催) ○公民館コンサート ○公民館ギャラリー ○公民館チャリティー	b	継続	文化教室及び公民館利用サークルの成果発表の場及び 市民のふれあいの機会をつくることができた。ギャラリーの 出品団体は前年度から2団体増となり、コンサート出演団 体も1団体増となった。今後も保健推進課と連携を図り、周 知に努める。
23	歴史を 守り文 化と国 際化を 育むま ち	文化・芸術活 動の活性化 (文化活動の 推進)	文化協会助成事業	文化振興、文化交流 に資する団体へ助成す る。	平成29年4月19日定期総会開 催 常任理事会(5・7・9・2月開催) 理事会(5・9月開催) 11月9日日帰り会員研修 民俗資料館における作品展示 (随時)	b	継続	文化活動の振興と普及・浸透を図り、会員相互の交流が 図られた。今後も継続的に支援を行い、文化活動を積極的 に推進していく。
24	歴史を 守り文 化と国 際化を 育むま ち	歴史・伝統文 化の振興(歴 史的文化的資源 の活用)	国史跡根来寺境内 周辺保全管理事業	平成25年度に実施し た保存管理計画事業を 引き継ぎ、事業効果を 総合的・多面的に評価 しながら史跡根来寺境 内周辺の保全・管理を 図る。	史跡根来寺境内とその周辺につ いて、検討を要する事案が生じた ときに、委員会を開催し、委員の指 導助言を参考に適正な保全を図 る。	b	継続	計画どおり事業が完了。史跡根来寺境内とその周辺の適 切な保全と今後の整備や活用等について検討することが 出来た。周辺の将来を展望した整備の検討が必要である ことから、引き続き、委員会の助言を受けながら、関係機関 との密なる連携と情報の共有を図り対応していく。
25	歴史を 守り文 化と国 際化を 育むま ち	歴史・伝統文 化の振興(歴 史的文化的資源 の活用)	埋蔵文化財活用事 業	ねごろ歴史資料館の 開館に伴い、根来寺境 内等の地域の特色ある 埋蔵文化財の総合的な 公開活用を行う。	史跡根来寺境内並びに根来寺遺 跡のガイダンス施設として、根来寺 境内から出土した埋蔵文化財の公 開・活用を行うための展覧事業を 実施し、ねごろ歴史資料館への集 客を図る。	b	継続	計画どおり事業が完了。今後も、史跡根来寺境内及び根 来寺遺跡から出土した考古資料等を、企画したテーマごと に、コーナー展示で公開していく。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【生涯学習課】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
26	歴史を 守り文化と国際化を 育むまち	歴史・伝統文化の振興(埋蔵文化財等の保護・活用)	根来の子守唄保存事業	古くから唄い継がれてきた「子守唄」の貴重な文化遺産を末永く後世に引き継ぎ地域文化の発展に寄与することを目的とする。	市民や各種団体との協働による様々な事業をとおして、文化資源の普及・啓発に努める。	b	継続	計画どおり事業が完了。ふるさとに伝わる文化遺産(民話・伝承・子守唄など)を題材に、唄やオペラ、創作落語を市民や各種団体との協働により実施し、ふるさとの魅力をより一層伝えることが出来た。これまでの実践を活かしながら伝統文化の保存・継承に努めていく。
27	人権が 尊重される まち	人権尊重の推進(人権尊重の意識醸成)	人権啓発事業	人権尊重思想の普及高揚を図り、市民に人権問題に対する正しい認識を広め、また未来を担う子どもたちが「心豊かで思いやりのある子ども」に育つことを願い、人権意識を高める。	人権講演会 保護者学級 小・中学生人権作文 人権ポスター	b	継続	小・中学生の人権作文集の発行や人権ポスター展の開催、市内各小学校において保護者学級を開設し、引き続き人権教育・啓発に努める。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【岩出図書館】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
1	生涯学 習でき るまち	図書館事業の 充実(子ども の読書活動の 推進)	図書館司書派遣事 業	岩出図書館の司書資 格を有したスタッフを学 校司書として市内各小 中学校図書館へ派遣す ることにより、岩出図書 館と学校が連携し、小 中学校における学校図 書館の活性化及び読書 活動の推進を図る。	週1回のペースで、岩出図書館 から学校司書を派遣し、学校図書 館の環境整備や児童生徒の読書 支援及び学習支援、また、司書教 諭・学校図書館ボランティアに対す る助言等を行う。	b	継続	市内小中学校に各37日学校司書を派遣し、児童・生徒へ の読み聞かせ・ブックトーク・アニメーションや授業で使用する 図書の収集、ビブリオバトルに関する指導をするなど、読書 支援・学習支援を行った。また、岩出市で初めて「図書館を 使った調べる学習」地域コンクールを実施し、全小中学校で、 学校図書室や岩出図書館から調べ学習で使用する図書を収 集したり、調べ学習をサポートしたりするなどの支援を行っ た。 団体貸出については、小学校は前年度に比べ貸出冊数が 16%減少しているが、中学校は前年度に比べて2.2倍に増 加している。 団体貸出の利用が増えるよう、さらに学校との連絡を密に し、早い段階でテーマを把握するとともに、引き続き教員への 利用啓発を図る。
2	生涯学 習でき るまち	図書館事業の 充実(子ども の読書活動の 推進)	家族ふれあい読書 推進事業	家族が子どもと一緒 に読書する時間をつく り、「うちどく(家での読 書)」することを推進す るとともに、家庭力の向 上と子どもの読書活動 の活性化を図る。	うちどくにおすすめの図書のリス トや家族の読書の記録を書きとめ る欄を掲載した「うちどくノート」の 配付や図書館におすすめ本を展 示するうちどくコーナーの設置を行 う。	c	継続	うちどくノートに掲載している「うちどくにおすすめのブック リスト」を一部リニューアルし、市内の小中学生のうち配付 対象学年の児童・生徒にうちどくノートを配付するとともに、 うちどくの啓発のため、おすすめの図書のリストから出題す る「うちどくクイズ」や各小中学校から選出された児童・生徒 の「うちどくの記録」の展示を実施した。また、小学校低学 年から習慣的にうちどくに取り組んでもらえるよう、小学校 の就学時健診の際に、図書館職員が各小学校に出向き、 保護者への啓発を直接行った。 「うちどくクイズ」への参加者が少ないので、PRやクイズ 用紙の配付の仕方を工夫しながら、学校と連携し、参加者 の増加を図る必要がある。また、小学校の就学前健診時 の保護者への啓発は効果的であるので、今後も続ける。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【岩出図書館】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
3	生涯学 習でき るまち	図書館事業の 充実(図書館 運営)	図書館利用促進事 業	市民の身近にあって、 いつでも、どこでも、だ れにでも図書館サービ スが受けられるように、 岩出図書館と分館・分 室のネットワークによ り、地域密着型の図書 館運営を図る。	さまざまなジャンルの蔵書を充実 するとともに、分館・分室との情報 ネットワーク化の充実を図る。 また、DVD上映会、おはなし会、 各種体験教室、講演会等の開催を 実施し、図書館の利用を促進す る。	b	継続	入館者数は前年度より減少しているものの、平成29年4 月から和歌山県内在住者・近畿大学生物理工学部通勤通 学者に利用対象を拡大したこともあり、貸出点数、新規登 録者数が増加している。前年度の課題であった駅前ライブ ラリーは、入館者数、貸出点数、新規登録者数、貸出人数 ともに増加している。一方で、上岩出地区公民館図書室の 入館者数、貸出点数、貸出人数ともに大きく減少してい るので、蔵書構成の見直しを図る必要がある。また、平成30 年3月から、新図書館システムの稼働に伴う岩出図書館 ウェブサイトやWebOPACのリニューアル、デジタルサイ ネージの導入等により、利用者の利便性がさらに向上し た。 イベントについては、報道への情報提供など多角的な広 報を行いながら、イベントを開催した。5月には、岩出図書 館の入館者が200万人に達し、記念セレモニーを行った。 新たなイベントとして、「大人のための絵本の読み語り」を 開催し、目線を変えたイベントに反響があった。今後も、市 民の関心の高い目新しいイベントを開催し、新規利用者や 貸出点数の増加に繋げる。
4	生涯学 習でき るまち	図書館事業の 充実(図書館 運営)	図書等購入事業	図書館の役割は、学 習や交流の場として生 涯学習の推進に大きな 役割を果たす地域情報 の拠点であり、様々な 情報や活用資料などの 提供をするとともに、利 用者の要望に応じて市 立図書館として図書館 運営を図る。	一般図書・児童図書及び視聴覚 資料(DVD・CD)等、図書館資料 の収集を行う。	b	継続	一般図書7,769冊、児童図書3,567冊、参考図書268 冊、視聴覚資料DVD100枚、CD100枚を購入した。でき るだけ利用者の要望に応え、資料の充実を図った。また、 大学入試過去問題集(赤本)を購入し、高校生の利用促進 を図った。 今後も、利用者のニーズや社会の動向を把握し、資料収 集を行うとともに、引き続き寄贈の呼びかけや古書店等 での購入により郷土資料の充実を図る。

7 平成29年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価対象期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日)

【民俗資料館】

番号	目標 施策名	基本施策名 (重点施策名)	事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
						評価	今後の 方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
1	歴史を 守り文化と国際化を 育むまち	文化・芸術活 動の活性化 (民俗資料館 の整備・充実)	民俗資料館展観事 業	郷土の歴史に関する内 容での展観事業を行うこ とにより、市民や次代を 担う小・中学生に郷土の 歴史の情報や学習の場 を提供することを目的とす る。	地域に即した内容で、興味を持つ ていただけるような展示を行う。 所蔵品展・収集資料品展(根来 漆器)・企画展・根来塗受講生作品 展示・岩出市文化協会作品展・ 特別展を開催する。	b	継続	根来塗講座受講生作品展示・収集資料品展入館者数は 28年度実績値を上回ったが、秋季企画展・根来寺所蔵宝 物展・所蔵品展・岩出市文化協会作品展入館者数は、2 8年度実績値を下回った。そして本年度から実施の寄贈品 展入館者数は、29年度目標値を上回った。 根来寺の所蔵する宝物・関連する資料や民俗資料館の 所蔵品の展示を通じて1人でも多くの方に根来寺や岩出の 歴史・文化に関心や理解を深めていただけるようポスター やチラシの掲載依頼施設を増やす等の広報活動の充実を 図っていく必要がある。
2	歴史を 守り文化と国際化を 育むまち	歴史・伝統文 化の振興(歴 史的文化的資源 の活用)	民俗資料館歴史学 習・講座事業	講演会や歴史講座と あわせて、職員等によ る歴史学習会を実施 し、市民に様々な角度 から郷土の歴史や成り 立ちについて学びふれ あう機会を提供する。	地域に即した内容で、各世代が 興味を持って学ぶことができよう なテーマや講師を選定し、多くの市 民の方に参加いただけるような講 演会・講座・学習会を開催する。	b	継続	「勾玉づくり」をテーマに開催した夏休み子ども歴史学習 会は、3回実施したが、3回目が募集定員の半分を少し超 える参加者であったので、来年度は「勾玉づくり」を2回にし て、1回は新たなテーマを選定して実施する必要がある。 また、歴史講座や秋季企画展講演会の参加者数は28 年度実績値を上回った。歴史講座については、アンケート 結果で要望の多い根来寺関連や郷土岩出の歴史等の中 で特に関心や注目度の高いテーマのものを実施していく。